

計画の概要

行政の役割

行政では計画の推進に向け、市内や事業者、市民との連携強化を図るとともに、観光振興に向けた体制・基盤整備を行い、市民や観光関係事業者の取り組みを支援します。また、国や山形県及び近隣自治体等との連携により、効果的かつ効率的な情報発信に取り組みます。

事業者の役割

観光客と接する機会が多い観光関係事業者は、観光客の多様なニーズの把握に努めるとともに、市内の他事業者や産業との連携を深め、観光振興による地域経済への波及効果を高めます。

また、観光関係団体等は、効果的かつ効率的な取り組みを進めるため、団体同士の情報共有・連携強化に努めます。

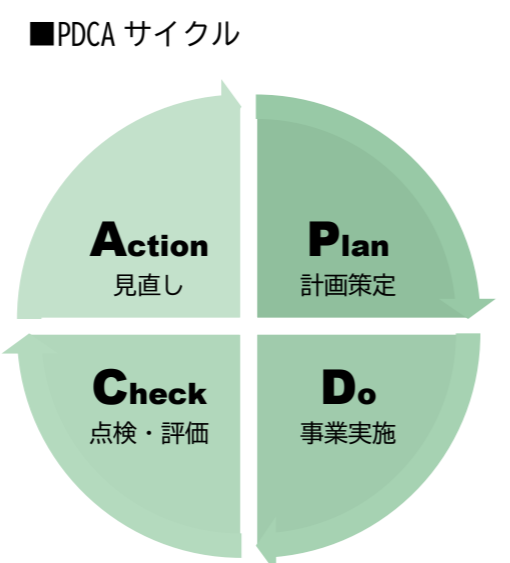
市民の役割

住んでいる地域の歴史や文化等、地域資源に対する理解を深め、この地域で暮らし続けたいと思えるまちづくりに取り組みます。また、市民全員が“寒河江市”で暮らす実践者であるという自覚のもと、観光客に対し“寒河江市ならではのおもてなし”の心で接します。

計画の進行管理

本市の観光における将来像を実現するためには、適切に本計画の進行管理を行う必要があります。

そのため、各方針の取り組み状況や評価指標について、PDCA サイクルに基づいて評価・検証し、様々な社会情勢等の変化も踏まえ、必要に応じて施策の見直しや追加を行っていくこととします。



寒河江市観光振興計画

令和5年度～令和10年度

●●●● 目指す将来像 ●●●●

SAKURANBO ツーリズム ～体験型観光の先進地～

計画の概要

市の魅力ある資源を活用し、持続可能な観光振興の中長期的な施策や観光の将来像を示すため、「寒河江市観光振興計画」を策定します。

□ 計画策定の趣旨

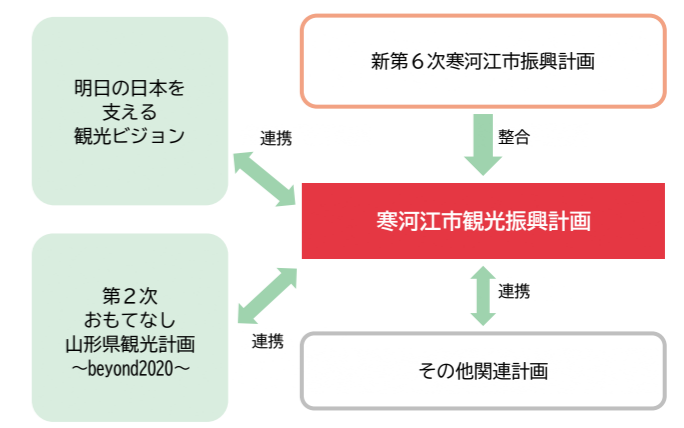
- ①国・県の動向を踏まえた計画策定
 - ・感染症流行による観光需要の大きな減少
 - ・新たな観光の価値観の広まり
 - ・「第2次おもてなし山形県観光計画～beyond2020～」の策定

□ 計画の位置づけ

市の最上位計画である「新第6次寒河江市振興計画」における観光分野の計画として整合を図るとともに、その他市の関連計画・施策や国・山形県とも連携を図り、策定する計画です。

②寒河江市で初めて策定する計画

- ・美しい景観と豊かな自然環境に加え、長い年月で育まれてきた歴史・文化があるまち
- ・R02「新第6次寒河江市振興計画」策定
- ・産業分野では、活力と交流を創成するまちを目指す



観光動向を踏まえた寒河江市の観光振興の全体像

各種調査結果等を基に、寒河江市の観光振興を取り巻く現状や課題の分析を行い、今後の寒河江市における観光振興の全体像を整理しました。

計画の全体像

寒河江市の観光を取り巻く主な現状	観光客のニーズ	観光振興を進める上で重要な視点	目指すターゲット	観光ビジョン	計画全体の目標	評価指標の設定	観光振興による成果
<ul style="list-style-type: none"> 観光さくらんぼ園への団体観光客の減少。 歴史や文化資源、風光明媚な景観、温泉施設等があるが、県内の他地域に比べ観光客が少ない。 30代及び中年層のリピーターが多く、観光満足度が高い傾向にある。 国・県ではインバウンド拡大に向け、様々な施策を展開している。 市内に多種多様な観光コンテンツがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 主要な観光地を避け、あまり知られていないローカルな場所を旅行したい。 その土地ならではの食事や買い物を楽しみたい。 日常生活から解放され、癒しやすらぎを得たい。 	<ol style="list-style-type: none"> 国内及びインバウンドの個人観光客の誘客 デジタル媒体を活用した特定テーマ型観光開発と情報発信の強化 立寄り型観光からの脱却と滞在時間延長施策の展開 	<ul style="list-style-type: none"> リピーター率が高い中年層 体験を交えた観光を楽しみたいファミリー層 東北地方に訪れる外国人 	<h3>観光ビジョン</h3> <ol style="list-style-type: none"> さくらんぼを核としたフルーツによる誘客事業の展開 <ul style="list-style-type: none"> 本市を代表する観光資源としては、市内観光果樹園での「さくらんぼ狩り」観光を中心に誘客を図ってきたが、コロナ禍等による旅行形態の変化や他産地との競合等もあり、観光客数がコロナ禍前に戻らない現状となっている。そこで、寒河江の代名詞である「さがえのさくらんぼ」のPRを強化し意識醸成を図るとともに、生産者や関係機関と連携してさくらんぼを核としたフルーツ等による新たな観光誘客施策の実施により、さくらんぼを中心に据えた観光誘客を展開する。 体験・テーマ型観光による観光誘客 <ul style="list-style-type: none"> 本市における観光誘客は、これまでさくらんぼ狩り等に訪れる団体客や寒河江まつり等のイベント時に訪れる観光客が主体となっていた。しかし、団体旅行から個人旅行へと旅行形態が変化してきたことを踏まえ、これまでのフルーツ狩り等での体験観光に加え、歴史・文化、スポーツ、アクティビティ、温泉等本市が有する様々な観光コンテンツを組み合わせた新たな観光メニューを開発し、各世代が年間を通して楽しめる体験・テーマ型観光による観光誘客を進め、将来的に「体験型観光の先進地」を目指す。 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">寒河江ファンの拡大・定着</p>	<p>年間観光客数</p> <p>現状値(R04) 277万人</p> <p>中間値(R07) 360万人</p> <p>目標値(R10) 375万人</p> <p>年間宿泊者数</p> <p>現状値(R04) 5.7万人</p> <p>中間値(R07) 6.0万人</p> <p>目標値(R10) 6.2万人</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">移住・定住人口の確保</p>
<h3>寒河江市の観光における課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> 団体から個人への旅行スタイルの変化への対応遅れ。 DXを活用した観光情報発信不足。 歴史・文化資源を活かした観光コンテンツ等、新たな観光コンテンツの開発の遅れ。 インバウンド観光客へのPR不足及び受入体制整備の遅れ。 <p>滞在時間の延長を促すための観光コンテンツの連携不足。</p>	<h3>新第6次寒河江市振興計画における観光分野</h3> <p>基本政策2 活力と交流を創成するまち</p> <p>第2節 新しい生活様式に沿った観光振興</p> <ol style="list-style-type: none"> 安心して訪問・滞在できる受入態勢の整備 魅力ある観光資源の活用 観光客の満足度向上 広域観光の連携強化 	<h3>観光客に選んでもらうための立ち位置</h3> <ol style="list-style-type: none"> 人間の五感(味覚・嗅覚・視覚・聴覚・触覚)で楽しめる観光地 さくらんぼやイベントをきっかけに何度も訪れたい観光地 寒河江市ならではの自然や歴史・文化等により、滞在時間を楽しめる観光地 	<h3>基本施策</h3> <p>基本方針1 さくらんぼを核とした観光コンテンツの磨き上げと情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市観光の代名詞であるさくらんぼを中心に市内の観光施設や特産品等、様々な観光コンテンツの魅力・満足度向上施策を実施し、様々な媒体を活用した観光情報の発信強化を図りながら、新たな観光客の誘客やリピーターの確保に取り組みます。 <ol style="list-style-type: none"> 特産品等を活用した観光コンテンツの磨き上げと満足度向上を図る観光施設の整備 → さくらんぼやその他フルーツ等の特産品を活用した新たな観光施設の実施並びに誘客事業や観光満足度向上を図る施設整備に係る助成金制度の創設 多面的な観光情報の発信強化と共有化(シェア) → メディア等による観光情報の発信強化とSNSを活用した観光情報の共有化施策の展開(シェア) <p>基本方針2 体験・イベント・食等のテーマに沿った市内周遊施策の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒河江ならではの体験、イベント、歴史・文化、食等を活用した誘客施策の実施及び四季に合わせた観光周遊ルートの設定等、各世代が年間を通して様々な楽しみ方ができる周遊施策の構築と公共交通機関等の利便性強化施策の実施による満足度向上に取り組めます。 <ol style="list-style-type: none"> 体験・テーマ型観光メニューの開発等による市内周遊施策の充実 → 農業、スポーツ、アクティビティ、温泉、食等の体験・テーマ型観光メニュー開発と各体験と宿泊を組み合わせた市内周遊施策による滞在時間の延長 イベントを契機とした市内観光客の確保 → 寒河江ならではのイベントと観光コンテンツを組み合わせた新たな市内周遊施策の実施によるリピーターの確保 慈恩寺等の歴史・文化を活用した学びツーリズムの開発 → これまで受け継がれてきた寒河江の歴史・文化を知り、感じてもらうための展示・体験コンテンツの充実・開発 四季に合わせた観光周遊コースの整備 → 四季に合わせたサイクリングやウォーキングコース等の整備並びにアプリを活用し楽しみながら周遊できる仕組みづくり 公共交通機関等の利便性向上 → ワンコインタクシーの充実や新たな二次交通施策(電動自転車・キックボード等の整備)の実施による利便性向上 <p>基本方針3 インバウンド・広域観光の強化と観光ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、増加が見込まれるインバウンド等の推進に向け、観光コンテンツの充実や近隣自治体との連携による広域観光の体制整備を進めるとともに、観光ニーズを調査・分析・共有化し、事業者や市民による「おもてなし観光」の意識醸成と実現に取り組めます。 <ol style="list-style-type: none"> DXによるインバウンド受入体制整備 → DXによる体験観光等の受入体制整備、観光ガイドの育成等サステナブルな観光への仕組みづくり 近隣自治体等との連携強化による広域観光施策の充実 → 近隣自治体等と連携し、インバウンド等に対応した広域観光地づくりの開発及び左沢線を活用した広域観光施策の充実 観光ニーズ分析を踏まえたおもてなし観光の推進 → 観光ニーズ分析を踏まえた観光情報データの共有化と観光客の満足度向上に資するスキルアップ研修会や観光アドバイザー事業の実施等のおもてなし観光施策の実施 	<p>年間外国人観光客数</p> <p>現状値(R04) 3,500人</p> <p>中間値(R07) 5,000人</p> <p>目標値(R10) 6,000人</p> <p>観光案内HP・SNSアクセス数</p> <p>現状値(R04) 9.7万回</p> <p>中間値(R07) 15万回</p> <p>目標値(R10) 18万回</p>			